

保育の理念・実践を伝え合い、分かち合い、共有する。
「みんなでみんなをみていく」法人内会報。



2021.7

編集・発行／本部 広報・企画・編集室 中村聖子

『オリンピック』

果たしてオリンピックはどんな形で開かれるのでしょうか。もしも、あなたが主催者の1人ならどのような方針を打ち出しますか。世論やマスコミへの気遣い、スポンサー、ステークホルダーなどへの配慮で心が押しつぶされそうになると思います。呑気で凡庸な私は「ただ見たい」、それだけです。人間技とは思えない演技や競技を見ると感動以上に不思議の世界に入ります。体操の床運動などは人ではなくて怪物としか言いようがありません。ただし、私は素晴らしい演技を見て勇気づけられることはありません。元来、光を浴びている人たちは嫌いです。Eテレの「こころの時代」では、高学歴でもほんとうに困窮する人のために自分の命や生活を捧げる名もなき人たちのドキュメントがよく放送されます。そんなとき、自分の煩惱や奢りに深く気づかされ、猛烈に自戒し激しく自己否定します。そこから究極の感謝の念や生きる勇気が湧き出てきます。光と闇の相補性でしょうか。

よっぴー

QRコードを読み取って、
取り組みの様子を check !

Tanenokai Topics

新体制スタート！

2021年6月25日より、種の会の理事長に片山雄基が就任しました。前理事長の片山喜章は、会長（常務理事）として、法人全体の保育者研修と保育研究に従事します。

「みんなでみんなをみていく園づくり」を合言葉に、種の会に関わるすべての人、特に職員自身が、日々小さな幸せを感じられるような園（施設）・事業を創るために、自身の役割をしっかりと果たしていきたいと考えています。

「園づくり」とは「仲間づくり」。“こころざし”を遠慮なく発信し、仲間を見つけ、どんどん巻き込んでいくことによって、想像もできないほどの大きな力を生み出していけると確信しています。日本は、もっと乳幼児期・学童期の子どもを支えるために力を入れていくべきです。私たちのアクションで、保育者の社会的な価値を高めたい！そう思っています。

変化し続ける時代、学びは私達が変わることを後押ししてくれます。古き良き素晴らしい取り組みは継続しつつ、新しい知見は積極的に取り入れていきます。多くの皆さんから「提案」（意見）が出る組織を目指し、ヤル気のある方、積極的に行動する方が報われるような組織を目指します。

理事長 片山雄基



養成校の授業に登場！

7/13 子ども教育宝仙大学の「保育内容（環境）」オンライン授業に、アルテ子どもと木幼保園の●●先生・●●先生が登場しました。保育の様子を説明したり、質問に答えたり。保育者として働く等身大の姿が、学生さんたちの目にはキラキラと映ったことでしょう。



なぎさ児童館 岩屋学童保育コーナー 灘の浜学童保育コーナー

施設をピックアップして紹介していきます。今回は、なぎさ児童館グループの3施設。なぎさ児童館は、何かあったら「児童館においで」と、地域の人を包み込んでいるような空間でした。学童は、放課後の“子ども達の社会”。元気あふれる子ども達の生活・遊びの場を保障するべく、保育者間で情報や考えを丁寧に共有されていました。各施設の様子をご覧ください。

学童の生活・遊びの
流れはこちらから
CHECK！



まるで別世界!? なぎさ児童館の午前と午後

児童館は、地域の子育ての支援、放課後の児童健全育成、地域交流の母体、中高生の居場所づくりなど、様々な機能を担います。

なぎさ児童館は午前中に、子育て親子に向けた支援や遊び場の開放を行なっています。

- ・赤ちゃんサロン（水曜開催、0～2歳児の親子対象）
- ・ちびっこ広場（火・金曜開催、就学前の親子対象）
- ・すこやかクラブ（木曜開催、2・3歳児の親子対象）

取材をした日は「赤ちゃんサロン」が開かれていました。参加親子は20組以上。皆で体操をしたり、好きな場所・玩具で遊んだりします。2名の担当職員が、親子の様子を見守ります。保育園やこども園、また、学童とも少し異なる子ども・保護者との接し方。関わり方で意識されていることを尋ねてみると、「初めて来られた方には必ず話しかけるようにしています。保育者は、遠くから全体を見て安全を確認したり、何か困ったことはないかと気を配ります。時には中に入って一緒に遊ぶこともありますが、ここでは、子どもと関わる主体は“保護者”。児童館を利用される目的や求められるものは、それぞれ違うので、相手が心地よい距離感を探っています」とのこと。子ども・保護者・保育者の距離感を常に意識しながら、保護者の肩の荷がすっとおろるような関わりをされていました。



▲赤ちゃんサロンの様子。「保護者同士で情報交換できるのがうれしいです。さっきも、影が多い公園を教えてもらったので今度行ってみます！」と教えていただきました。



午前中のゆったりとした空気からは一変。小学生が帰ってくると、午後の児童館には元気な声が飛び交います。なぎさ児童館では、学童誕生会や映画会、季節の製作などの行事があります。誕生会では、3年生以上の児童と職員1名が中心に企画・進行を行なっています。

◀誕生児にインタビューする様子。この後、子ども達が考えたジェスチャーゲームで大盛り上がり。

ほっこり温かい 岩屋学童保育コーナー

40名定員で、集合住宅の一角にある岩屋学童保育コーナー。廊下で卓球や野球(道具は子ども達の手作り)をしたり、駅前広場や公園に出かけたりと、工夫をこらして過ごしています。限られた空間でも、子ども達がしたい遊びを保障できるような環境づくりを心掛けています。



▲栄養士資格をもつ保育者によるおやつのおにぎり食育が大好評！



◀職員ミーティングは毎日開催。



新設！灘の浜保育コーナー

今年度スタートの灘の浜小学校の中にあります。きれいな建物・広い校庭で、子ども達は伸び伸びと過ごしています。はっとこども園の目の前という立地を生かして、はっとの職員が保育に入ったり、土曜日に合同保育を試験的に行なったりと、新しい取り組みに挑戦中です！

◀小学校の広い校庭で遊ぶ子どもたち。